

創立記念礼拝

地の塩 世の光

学院長・宗教総主事 佐々木 哲夫

13「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。**14** あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。**15** また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。**16** そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

マタイによる福音書 5章 13節-16節

*

宮城学院は、本年度、創立 137 年目を迎えています。四人の人物、エリザベス・プールボー、メアリー・オールド、ウリアム・ホーイ、押川方義たちは、1886 年(明治 19 年)9月 18 日「宮城女学校」(「予科」3年「本科」4年)の設置認可を受け、宮城学院を建てました。今日、宮城学院は、この四人の信仰すなわち聖書の言葉を土台にして桜ヶ丘に学窓を構えております。本日は聖書の言葉の中でも折に触れて引用されている聖句「地の塩、世の光」からご一緒に学びたいと思います。

**

本日の聖書箇所は、「地の塩世の光になりなさい」ではなく、皆さんが既に「地の塩である。世の光である」と断言しています。むしろ、勧められている事は、「塩が塩気を失うな」「光を輝かしなさい」です。ところで、塩化ナトリウムはイオン結晶ですから、不純物はさておき、「塩が塩気を失う」の表現に若干違和感を覚えるかもしれません。「塩気を失う」の原文の言葉には、「味を失う」だけでなく「愚かになる」の意味もあります。直訳するならば、「塩が味を失う」「塩が愚かになる」です。これでは不本意な日本語表現になりますから「塩に塩気がなくなれば」と訳したものと推察されます。

この「愚かになる」の単語は、新約聖書では数カ所だけに使われている言葉で、調べてみますと、使徒パウロが興味深い文章において用いています。引用します。ローマの信徒への手紙 1 章 22 節「自分では知恵があると吹聴しながら愚かになり」です。「愚かになる」ことを「自分では知恵があると吹聴する」と説明しています。本日の聖書箇所は、「塩は、愚かになることなく」「光を人々の前に輝かしなさい」と明言しています。換言するならば、自ら知恵があると思い上がることなく、それぞれに

与えられている光を輝かしなさいというのです。「人々があなたがたの天の父をあがめるようになるためである」とも宣言されています。聖書の言葉によって味付けされている私たちは、地の塩、世の光です。地の塩として世の中をあかるくすることのできる歩みをなす者でありたいと願います。また、それが宮城学院をこの世において輝かすことになると信じるものであります。

(2023年9月16日)